

橈脚(かいあし)類

Copepoda

生活史はかなり「ミジンコ」と異なっている。まず常に雄と雌がいて、交尾して卵を作る。生み出された卵は卵囊に入れられ雄の体の中心に、または両側にぶら下げられる。卵から生まれた個体は親とはかなり異なった形をしている。まるで蚤のような姿をしており、ノープリウス幼生と呼ばれる。

ノープリウス幼生は)脱皮を5回繰り返して、6齢幼生となると、次の脱皮で変態してコペポディトと呼ばれる形態になる。ここで頭に長い触角を持ち、ようやく親と似た形になるのである。コペポディトも6齢まであり、最後の6齢で成熟個体となる。ミジンコとは異なり、成熟すると脱皮を行わない。

カイアシ類はノープリウス幼生からコペポディト期の初期にかけては植物食である。ところがその後、ケンミジンコの多くの種およびヒゲナガケンミジンコの一部の種では動物食に変わる。(中略)

カイアシ類はこれまでの捕食者(魚、フサカ幼虫、アミ)に比べサイズが小さい。大きい種では成熟個体が3mmに達するが、小さい種では1mmに満たないものもある。したがって餌にできる動物の大きさは小さいものに限られる。好んで食べる餌は、ワムシ類とゾウミジンコなどの小型ミジンコである。



Copyright © 2013 Akira Sakata. All Rights Reserved.

ヒゲナガケンミジンコの仲間

海では圧倒的に優位な橈脚類の仲間である。

北海道天売島漁港にて採集(2012年)。

『Akira Sakata HP』 Image14